

## 新たな環境で一年を過ぎて

読賣テレビ放送株式会社  
総務局情報システム部

長谷川 純 也

私は2013年3月に大学院工学研究科応用化学専攻分子創成コースを修了しました。在学中は茶谷研究室にて新しい有機合成反応を研究していました。特に有機金属錯体を利用した触媒反応により、不活性結合である炭素-炭素結合を切断し、新たな合成反応開発・設計していました。そして、現在は化学の研究とは全くと言ってよいほど関係のない、テレビ局に勤務しています。一般的にテレビ局と言えば、バラエティーの制作プロデューサー、報道記者、カメラマンのような仕事をイメージすると思われるが、現在私が配属されている部署は情報システム部です。

本稿ではテレビ局に就職しようと思った理由、そして就職してからの1年半を振り返って感じたこと、これからの抱負を語りしたいと思います。

前述に、テレビ局を志望した理由を述べると大げさなことを申し上げましたが、単純にテレビが好きであるという理由でした。幼いころからテレビが好きであり、新たな情報、笑い、感動を提供してくれるテレビに常に魅力を感じていました。当時番組制作について興味はあったのですが、実際に就職先としてテレビ局を考え始めたのは就職活動を始める直前でした。テレビに関係する知識や経験があったわけではなく、単にテレビが好きで、番組制作に携わりたい、特にカメラをやりたいという気持ちで就職を決めました。その気持ちだけは誰にも負けないと意気揚々と入社し、初めに配属された部署が情報システム部でした。

就職活動するにあたり、会社のことは調べていたつもりでしたが、情報システム部があることは気にも留めておらず、入社して初めてそのような部署があることを知りました。

情報システム部では、番組やCMの情報を送出システムに受け渡す営放システムや、社内インフラシステムを構築する仕事から、パソコンの機器管理など、多岐にわたる仕事があります。私の主な仕事は、営放

システムの構築・保守とパソコンの管理です。パソコン管理の仕事は、例えばパソコンが壊れた、メールの使い方が分からないなど、ユーザからの様々な問い合わせに対処する仕事から、ハードの機器選定などがあります。大学生時代にはネットサーフィンと、WordやPowerPointを少し使用していたという程度で、パソコンに対して苦手意識を持っていましたので、情報システム部で仕事することに対して不安を感じていました。私自身がパソコンの使い方をよく分かっていないため、ユーザからの問い合わせには即答できず、「調べて折り返し回答します」と言って対応する日々が続きました。研究室に属していた頃はミリグラム単位の物質を扱い、不純物が混ざっていると化学反応に影響を及ぼすため、常に細心の注意を払って実験を行っていました。また、反応させる物質自体やその量を変えたり、何度も同じような実験を繰り返し行っていたので、コツコツと作業することには少なからず自信を持っていました。しかし、実際に職場でのユーザからの問い合わせはパターンが決まっているわけではなく、様々な問い合わせがあるため、即時対応ができませんでした。そのため、時間は掛かってしまうのですが、問い合わせに対する対応方法を一つ一つメモに残し、一度対応した内容については忘れないことは当然ですが、派生した問題に対しても対処できるようにしています。現在も新しい事象に直面した時には即座に対応できないこともありますが、コツコツと積み重ねることを大切にしながら、学んだことを応用する力を身に付けていきたいと思っています。

パソコン管理以外に私の主な仕事には、営放システムの構築・保守があります。営放システムとは、テレビ局独自のシステムであり、テレビ番組を放送するにあたり鍵となるシステムです。営放システムに関しても様々な使い方があり、また様々な部署が連携して使用しているシステムのため、ユーザからの問い合わせ

---

や覚えなければならない事が多くあります。実際に現場で使用しているユーザが使いやすいようにシステムを構築することが求められるため、現場ユーザとの話し合い、コミュニケーションが必要となります。友人と話す際に求められるコミュニケーション能力とは違い、どれだけ相手に分かり易く、端的に伝えられるかを求められます。自分の意見を常に持っていることが大切であり、そのためには常に問題に対して考えてい

ることが求められます。茶谷教授には「常に考えながら実験しなさい」とご指導いただきましたが、今になり「考える」ことの大切さを痛感しています。

以上、まとまりのない文章でしたが、日々の積み重ねを大切に、今後私が制作した番組を皆様にご覧になっていただけるよう精進して参ります。

---

(応化 平成 23 年卒 25 年前期)